

経営比較分析表（平成29年度決算）

神奈川県 秦野市

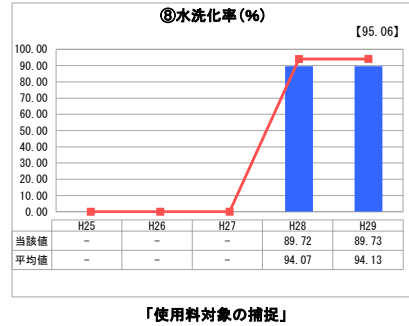
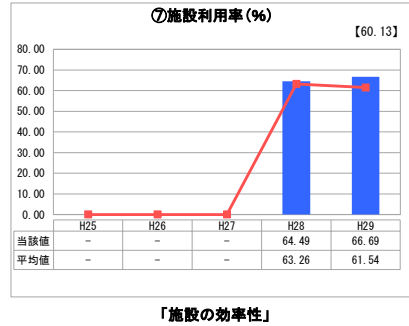
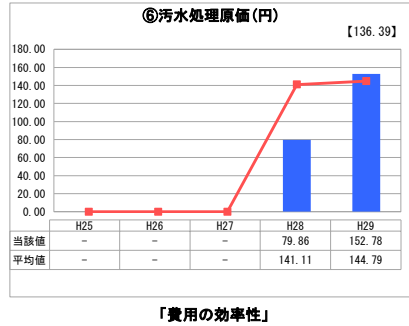
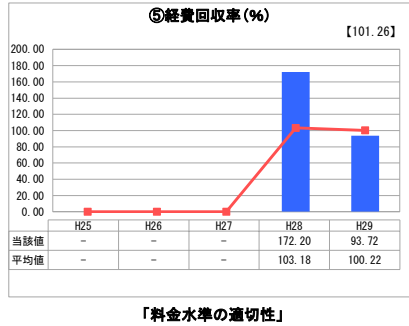
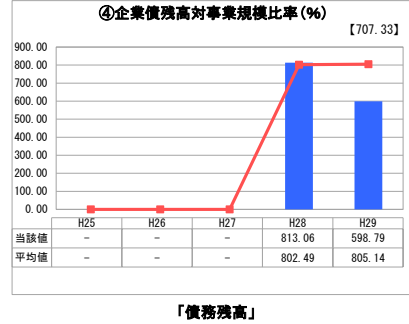
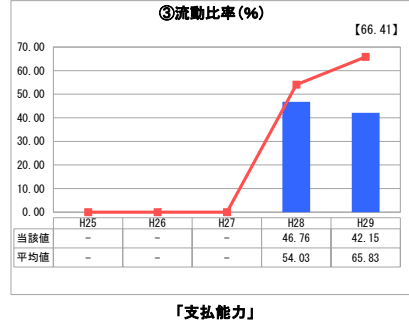
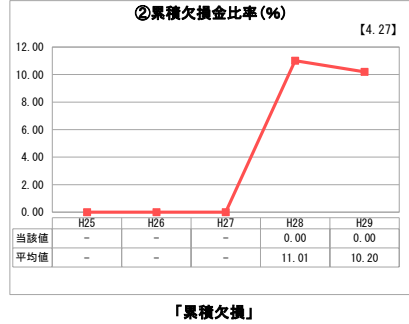
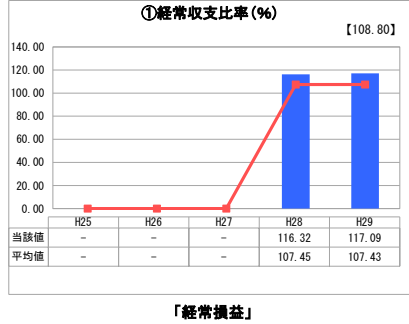
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ac1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	55.15	87.74	96.75	2,424

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
162,296	103.76	1,564.15
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
141,962	21.70	6,542.03

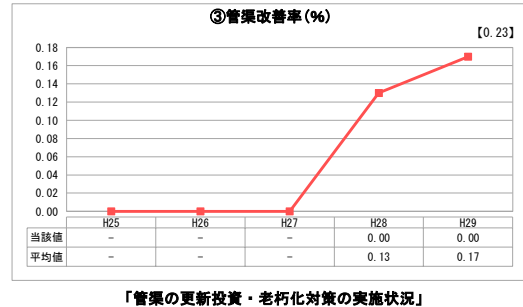
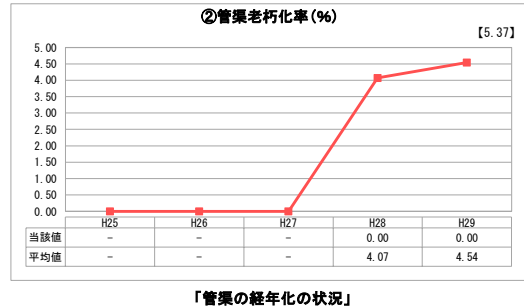
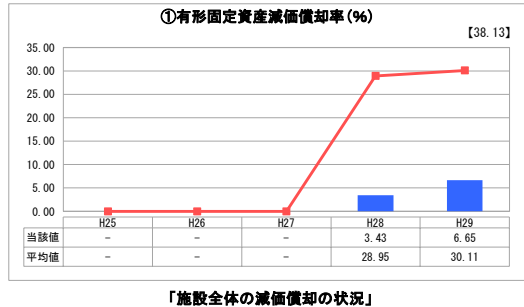
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度から大きく増減があった「経費回収率」及び「汚水処理原価」については、分流式経費の算定方法の見直しによるものであり、この見直しの結果、いずれの指標とも、類似団体平均を下回りました。

市街化区域における汚水整備については、ほぼ概成しましたが、「水洗化率」が伸び悩んでおり、「経費回収率」の結果に見られるとおり、見込んでいた投資効果が十分に得られていない状況にあります。

本市においては、平成28年度に策定した経営戦略に基づき、近い将来に迎える施設の大規模更新に備えて、財務体質の強化を図っているところであり、企業債残高は、概ね計画どおり減少の傾向にあります。

今後さらに、健全で持続的な事業運営を行うことが出来るよう、普及・広報活動を強化し、水洗化率の向上に努めるとともに、人口減少を踏まえた適切な料金水準について、検討を進めていく予定です。

2. 老朽化の状況について

平成29年度決算時点で、法定耐用年数を超えた管きよはなく、有形固定資産減価償却率も類似団体と比べて低い状況にあります。

しかしながら、近い将来に確実に迎える大規模更新に備えて、終末処理施設を含め、計画的に施設の更新、耐震化を実施しているところです。

管路施設については、過去から継続して、防災拠点等の重要施設から終末処理場までの汚水幹線について耐震化を実施するとともに、管きよの更新事業費の平準化を図るため、管きよ改良（長寿命化）事業も継続して実施しています。

今後も、市民の生活を支えるライフラインの安定した維持管理及びサービスの供給に努めます。

全体総括

企業会計へと移行して間もないため、経営状況の推移を分析することは難しい状況です。

当面は、平成28年度に策定した経営戦略（秦野市公共下水道事業計画）を指標として、今後さらに、健全で持続的な事業運営を行うことが出来るよう、普及・広報活動を強化し、水洗化率の向上に努めるとともに、人口減少を踏まえた適切な料金水準について、検討を進めていく予定です。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。